



校長室だより

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和4年10月6日
第25号

今週は週の前半と後半とでは気温が10℃も違い、あまりに急激な冷え込みに秋を感じる今日この頃です。TV等の気象情報に注意し、毎朝自宅を出る前にその日の服装の調節をお願いします。子供自身が考えて服装の調節をしたり、雨傘や上着等を準備したりできるように、ちょっとした家族の会話が効果的でしょう。

さて、図書室内には新着図書がずらりと並びました。つやつやとカラフルな表紙を見ているだけで本の世界に誘われます。早速借りていった荻っ子が何人もいよう、個人名の書かれた代本板がところどころ本の代わりに置かれています。スマホやタブレットだけでなく紙の本にもゆっくりと親しむ時間を大切にしたいものです。



1年間の振り返し 個々の振り返りと情報交換を大切に、見直しを進めます

★学級の垣根を越えた情報交換 チーム力でじっくり子供たちを育てます

職員室では、1人1人の子供の姿をいろいろな方向から見つめ成長と課題を捉えるために、毎週1回、全体での情報交換を行っています（もちろん日常的な報告・連絡・相談も、その都度行いますが）。最近ではどの学級も、仲間と協力する、苦手なことにも自分なりのめあてをもって挑戦する、すぐに教室を飛び出さないなど、それぞれの子供の成長の姿が見られます。一方、まだまだいくつかの課題や突発的な問題があり、保護者の方とも連絡をとらせていただいている場合があります。そういったことも職員室内では学級の垣根を越えて情報を共有し合っています。

また特に個別の支援が必要な場合は、その方法や目標について話し合い見直しを図ります。子供の日頃の言動を見ていると、自己肯定感（自分は大事な存在だと大切に思える心）が低いと思われる子もいます。そうした子の心情面を理解するよう努め、小さなことから自信をもち、学校へ来るのがより楽しくなるように、具体的な対応策を検討します。

こうした情報交換を通し、学級担任だけで問題を抱え込まず、職員室のチーム力でじっくり子供たちを育てていくことが大切だと考えます。

★教員も、自分の取組の中間見直しを行っています

1年間の振り返しのこの時期、我々教員も各自の取組の中間見直しをし、自己評価を行っています。学習指導や学級運営、また各自の担当する校務等々、これまでの取組状況と成果を振り返りました。

どの先生方も各自の目標を立て、この半年間でいろいろな取組を試みておられました。校長としては、今回個別に面談を行いながら、それぞれの成果をねぎらい、課題について多少ながらアドバイスをしました。次はこのようなとを考えて取り組み始めておられる先生方ばかりです。

これからも皆でよりよい荻生小学校をつくっていきます。

あさがおのついでリースづくり（1年）



毛筆練習中！（あおぞら）



授賞伝達の様子（5日）



幅跳び終わりました（5年）



鉄棒がんばるぞ（3年）

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

元気に「さわやかあいさつ運動」実施中！

秋の「さわやかあいさつ運動」が始まりました。4日（火）の1年生を皮切りに、順次当番学年が朝の校門に立ってあいさつをしています。

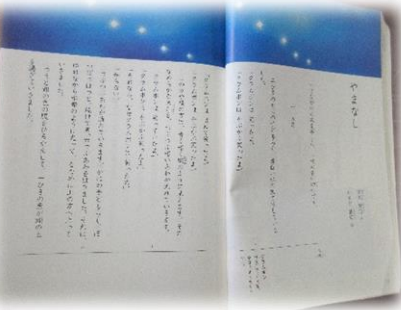
5日（水）は2年生の当番日でした。いつもよりも少し早めに登校した子も



いて、皆元気に「おはようございます」と声を出していました。公民館の前田館長さんら地域の方々からは、「子供たちの声に元気がもらえます」「気持ちのいいあいさつですね」と嬉しいお言葉をいただきました。

シリーズ「教室におじゃまします」10/3(月)6年国語科の巻

この日の朝に席替えをしたばかりの教室は、どことなく新鮮な雰囲気が出ていました。最初は漢字テストです。少し練習タイムがあり、その後に机の向きを変えて5分間行いました。その後、いよいよ今日から宮沢賢治の「やまなし」です。前時まで、教科書の順番を変え、先に宮沢賢治に関する説明の文章を学習していた6年生の子供たちは、「やまなし」への心の準備がもうできているようでした。



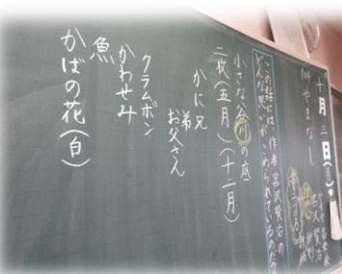
宮沢賢治が作品を通じて自分の理想とするものを表現したかったという

前提に立ち、この不思議な物語「やまなし」に向き合い始めました。こうしたところは鈴木先生の絶妙な語りがとても効果的な導入になっていると感じます。



今回、本文の音読はCD（音読しているのはあの高橋一生！でした）を使用し、先生は黒板に写した本文をなぞることに専念しました。自力で読むのが苦手な子は、教科書ではなくこのスクリーンを見ながら物語の内容をたどっていました。「クラムボン」やら何やら、一見意味不明な言葉が次々と出てくるのですが、それがなおさら興味をかきたてるのか、教室内は皆集中して話の世界に引き込まれていました。一読後は、登場人物（人物？）等を確認しました。やはり一筋縄ではいかない不思議な話ですが、次回が楽しみな、よい雰囲気でのこの日の授業が終わりました。楽しかったですよ。

今回、本文の音読はCD（音読しているのはあの高橋一生！でした）を使用し、先生は黒板に写した本文をなぞることに専念しました。自力で読むのが苦手な子は、教科書ではなくこのスクリーンを見ながら物語の内容をたどっていました。「クラムボン」やら何やら、一見意味不明な言葉が次々と出てくるのですが、それがなおさら興味をかきたてるのか、教室内は皆集中して話の世界に引き込まれていました。一読後は、登場人物（人物？）等を確認しました。やはり一筋縄ではいかない不思議な話ですが、次回が楽しみな、よい雰囲気でのこの日の授業が終わりました。楽しかったですよ。



やはり一筋縄ではいかない不思議な話ですが、次回が楽しみな、よい雰囲気でのこの日の授業が終わりました。楽しかったですよ。



おまけの<ひとこと> 6年生の「やまなし」の授業を見ていて思ったのは「授業は必ずしもその時間のうちにすっきりと分らなくてもいいのだ」ということでした。「クラムボンって何?」「かにはどうしてお母さんがいないのか」等々、6年生の素直なつぶやきがたくさん聞かれましたが、考えてもすぐに分からない、分からないけどそれがなおさら面白い、ということもあるんですね。実はこのあと、5日（水）の国語の授業もちらりとのおぞく機会がありました。子供たちは分からないなりに本文から読み取れそうなことをいろいろ書き込んでいてそれは楽しそうでした。「だれでもすぐ分かる」では収まらない、考え続ける楽しさ。奥が深い！

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。